



1. 目的

- 世界でコロナによる医療の需要が増加
- 患者さんへの負担
(感染症対策、行動制限 etc...)
- 自分の入院、家族の入院

2. 調査方法

文献調査

(「ナースが知りたい！患者さんの心理学」)



聞き取り調査①(宮城大学看護学群K先生)



聞き取り調査②(看護助手の方)

4. まとめ(考察)

- 患者さんの年齢によって心のケアの方法が違う
- 医療従事者、家族側にもケアが必要である
- 病院側からの情報発信が少ない

5. 今後の展望

- 普通に生活できていた人
→今も状況を理解させるためには
- コロナの状態ではないときの心のケアを自分で考える

3. 調査結果

調査結果Ⅰ

- 問題中心の対処法
→出来事、そのものを解決する、
- 情動中心の対処法
→出来事に対する見方を変えたり、情動的な苦痛を和らげる。

調査結果Ⅱ

◇聞き取り調査: 宮城大学看護学群K先生

◎患者さん

家族、友人と会えない

→今までになかった不安

◎家族側

自分の目で状態を確認できない

→病院からの情報提供が少ない

調査結果Ⅲ

◇聞き取り調査: 中嶋病院(仙台市) 看護助手

子ども

- 小学生以下
→基本親がつく、タブレットを持ってる
⇒心のケアは少ない

- 中学生以上
→スマホ、タブレットを持っている
⇒聞かれたことをこたえる

高齢者

- 怒ってしまう、帰りたい
→否定はしない
⇒同情をしたり、共感をする

看護師さん

- 入院治療計画書から患者さんの情報を読み取る

6. 参考文献・お世話になった方

- ▷出典: 西東社2013年 編著 大木桃代
「ナースが知りたい！患者さんの心理学」
- ・宮城大学看護学群 K先生
- ・社会医療法人 康陽会中嶋病院 看護助手M様